

写真だより



「超小型模擬人工衛星（缶サット）体験イベント」

7月23日、潮岬青少年の家で、県宇宙教育研究会が主催する空き缶サイズの超小型模擬人工衛星「缶サット」の製作・着地体験イベントが開催されました。

イベントには、串本中学校、串本西中学校、桐蔭中学校の生徒約40名が、数人チームごとにわかれ参加。講師である東京大学大学院の中須賀真一教授から出された課題（落下時間を調整し着地時に缶サットを直立させる等）を達成しようと、缶サットの形状やおもりの調整など意見を出し合い、チームごとに競いました。

参加した串本中・串本西中学校の生徒は「改良したが結果が出ず悔しかった」「難しかったが、みんなで協力することが楽しかった」とイベントを振り返り、中須賀教授は「成功させようと一生懸命取り組む姿が見れて嬉しい。ロケット打ち上げを機会に宇宙に興味を持ってもらえたら」とこどもたちに期待しました。

「親子で作るモデルロケット打ち上げ体験会教室」

7月25日、串本町子ども会連絡協議会による小型モデルロケット製作・打ち上げ体験会教室が潮岬青少年の家で開かれ、町内小学校の4～6年生・保護者など約30名が参加しました。

桐蔭中学校の科学部顧問である藤木郁久氏が講師を務め、同中学校の科学部の生徒が児童一人ひとりに丁寧に作り方を指導。町民グラウンドでの手作りロケット打ち上げでは、多くの児童が目を輝かせていました。

同協議会の小原真子会長は「“こういうものが飛ぶのか”とロケット打ち上げを身近に感じられたと思う。いい機会になったのでは」と喜びを語り、参加した児童は「大変やったけど楽しかった」、「面白かった」と感想を話しました。



じんこうえいせい 人工衛星ってどんなもの？

惑星の引力に引かれて惑星の周りを回り続けるものを“衛星”と呼びます。（例えば「月」は地球の周りを回り続ける衛星です）

「人工衛星」は、文字通り“人間が作った衛星”です。人工衛星は、数百～数十万km離れた高いところで、地球の周りを回って、カメラや機械でさまざまなデータをつくり、地上へ送ってきます。

身近な生活に役立つ人工衛星

移動する車や飛行機などが「今どの位置にいるのか」を知らせてくれるのが「測位衛星」です。この人工衛星が地球の周りをいくつも回っていて、そのうち4つの衛星からの電波を同時に受信し計算することで、正確な位置を知ることができます。（利用例：カーナビ）



※出典 スペースポート紀伊まるわかりブック

【広告】町収入の一部とするため有料広告を掲載しています。